



SANO NIHON UNIVERSITY
SECONDARY SCHOOL



[広報]

わかざくら

W A K A Z A K U R A

vol. 55
2021. 3. 1



はばたきの時

目次

| | |
|----------------|-----------|
| 卒業式式辞（理事長・学園長） | P 2 |
| 卒業式告辞（校長） | P 3 |
| 卒業生各賞受賞者 | P 3 - P 4 |

佐野日本大学中等教育学校
栃木県佐野市石塚町2555 ☎ 0283-25-0111(代)
<http://ss.sanonihon-u-h.ed.jp/>

卒業式にあたって



多様性の未来に 挑戦する姿勢を

理事長 長谷川 弘

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。昨年は社会生活そのものが一変する、まさに激動の一年でした。この3月に卒業する皆さんも、さまざまな思いを抱いて今日の日を迎えたことと思います。

さて、米国や欧州で昨年12月に接種が始まった新型コロナウイルスのワクチンが、ゲノム解析からわずか1年足らずで実用化されました。ウイルスの配列が分かれば比較的短時間の開発が可能で安全性にも優れた「mRNAワクチン」の技術が、今回のスピード開発を可能にしたのです。1990年に始まったヒトゲノム解析からわずか30年あまり、研究者の努力とイノベーションの積み重ねは、生化学をはじめとするテクノロジーの発展に大きく貢献しています。

イノベーションは「多様性」の中から生まれます。そして多様性を受け容れるためには、思考を柔軟に保つことが不可欠であり、それを可能にするのは「歩」の心だと私は考えています。「歩」の字は「立ち止まり、少し考える」という意味を持ちます。一度立ち止まり、日常的に固定化された通念や常識・偏見を鵜呑みにしない知見。

決して高度なものではなく、ごく常識的な普通の見識を持つことが重要なのです。脳科学者、中野信子氏の著書に「正義中毒」という言葉が見えますが、これは30歳前から始まる前頭前野の萎縮により、「正義」の名のもと相手を攻撃しようとする行動を指します。SNSにおける誹謗中傷がその顕著な例です。人間のそのような負の特質を理解し、自分を客観的に見ようと努めることが、本質的に相手を受け容れることにつながるはずで

す。日本では意見や価値観の統一が重要視されていた時代もあったように思います。しかし現在は「異質なもの」を排除するのではなく、受容していかなくてはなりません。「違い」を受け容れ、学び、意見を融合させる。そこから、別種の思考を取り入れていく。日本式の価値観の前提さえ壊してしまうような、価値観の再構築です。それこそが、新しい時代に私たちが目指すべき多様性ではないでしょうか。

そして多様性を持つチームに、挑戦し続ける気概が備われば、もはや恐れるものではありません。

“The only time you must not fail, is the last time you try.”
(最後まで挑み続ける)

これは世界的スポーツブランド、ナイキの創業者フィル・ナイト氏が大切にしている言葉です。失敗を恐れず、リスクを取っても挑み続けることの大切さを力強く語っています。本日巣立つ卒業生の皆さんが、この多様性の社会で自己を確立させ、果敢に挑戦し続ける人生を送ることを祈念しお祝いの言葉といたします。



「自主創造」の精神で 地球規模の課題解決を

学園長 浦田 奨

昨年来、新型コロナウイルスの感染拡大は、経済・雇用・教育など社会のあらゆる側面に甚大な影響を与えました。そしてテクノロジーの進展に伴い、社会構造そのものが加速度的に変化のスピードを上げています。新政権は、その遅れが指摘される社会のデジタル化、すなわちDX(デジタルトランスフォーメーション)を最重要課題の一つとしており、目に見える取引である「モノが中心の経済」から、形を持たない「情報が中心の経済」へと抜本的に変化していくことが予想されます。人間が情報を解析することで価値が生まれた「Society 4.0」から、ビッグデータをAIが解析し、人間にフィードバックされる「Society 5.0」への移行は経済のグローバル化や地方創生の進展を促し、さまざまな地域間格差を解消することが期待されています。

しかし一方で、現代社会の抱える負の側面にも目を向けなくてはなりません。急速なデジタル化・グローバル化に伴うリスクや近代産業の発展に起因する多くの問題が存在し、それらは複雑に絡み合い混沌の様相を見せて

います。デジタル化はサイバー空間からフィジカル空間への影響を拡大し、人間関係の希薄化やそれに伴う社会的問題の発生を招きます。また、人類が長期にわたり依存し続けてきた化石燃料の消費により、気候変動による大規模自然災害も世界各地で頻発しています。これは感染症の脅威と同様に予測不可能であり、人類の抱える課題の多くは地球規模での取り組みが欠かせないものとなっているのです。

この希望と問題が交錯し合う状況に活路を見いだすのは、デジタル活用共生社会の実現だと私は考えています。そこでは年齢、ハンディキャップ、性別、国籍等にかかわらず、ICTの利便性を享受し誰もが豊かな人生を送ることができます。そしてそのような社会では、幸福実現の舞台であるこの地球を守るため、世界的課題に対してすべての人々が主体的に取り組んでいけるのです。2021年、アメリカがパリ協定に復帰するという国際協調の中で、世界は今、「共生」の力で未来を創造すべき時を迎えているのではないのでしょうか。

日本大学の教育理念「自主創造」は、「自ら学び、自ら考え、自ら道をひらく」という、人生を自ら切りひらく姿勢をあらわしています。卒業生の皆さん、この言葉を常に心においてください。そして地球市民の一員として、生涯、挑戦を続けてください。本日、学園を巣立つ皆さんが「自主創造」の精神で、それぞれの未来を逞しく切りひらいて行くことを祈念し、お祝いの言葉といたします。



自分らしく歩め

校長 船渡川 重幸

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今日は皆さんにとって、本校を卒業する日であると同時に、新たな進路に向かって旅立つ日でもあります。その門出にあたって、饒の言葉を贈ります。

皆さんがこれから生きていく時代は、変化が激しく、先行きが不確実かつ予測困難な時代です。また、AI（人工知能）やロボットの進化は、仕事と働き方を大きく変容させています。一方で、今回の新型コロナウイルス感染症の問題をはじめ、環境破壊による地球温暖化、エネルギー問題、人口問題、食糧問題、大国間の対立等々世界規模での様々な課題に直面しています。そのいずれもが正解のない、あるいは正解が一つとは限らない、複雑で困難なものです。このような時代だからこそ皆さんが、逞しくしなやかに、そして幸せに生きていくために、三つのことを話したいと思います。

まず、自分を大切に、自分らしく生きてほしいということです。人にはそれぞれ、誰にもない良さ、素晴らしさがあります。それは無限に伸びる可能性を持っています。ところが、人はえてして自分の良さに気づかなかったり、気づいていてもそれを磨こうとしなかったり、自分の良さが伸びないことを他人のせいにしたりします。立派な人間に成長するかどうかは、能力の高低ではなく、自分の能力を伸ばそうと努力するかどうかにかかっていると思います。自分自身の中にある良さを見つけ、それを絶えず磨きながら自分らしく生きていくよう心掛けてもらいたいです。

次に、『出会い』を大切にしてほしいということです。これからの皆さんは、親や教師に頼らず、自分で考え、自分の判断で行動することが求められます。しかし、社会経験が乏しいため、理想通りに行かず、悩んだり苦しんだりすることも少なくないでしょう。それを乗り越えていくためには、よい友達が必要です。お互いが信頼と尊敬で結ばれた友達こそ大切なのです。皆さんはこれから先、多くの人たちと巡り会います。その出会いを大切に、相手に思いやりの心を持って接し、生涯の友を作ってください。困難な時代を生き抜くためには、何より人々が平和を求め、思いやりの心で互いに協力しあっていくことが大切です。今までの友も、これから出会う友も大事にして、様々な困難を乗り越えていくとともに、将来の日本を力強く担ってほしいと思います。

三つ目に、まわりの人々や自然に対する感謝の心を忘れないようにしてもらいたいということです。皆さんがこれまでに育ったのは、皆さんの成長に心を砕いてきた、家族の深い愛情や慈しみがあつたればこそです。また、皆さんがこの学校で心おきなく学ぶことができたのは、クラスメート、先輩方、後輩達、そして先生方からの有形無形の力添えや励ましがあつたからではないでしょうか。さらに、何気なく咲いている校庭の草花は皆さんの心を慰め、樹木は憩いの場を与えてくれたはずで、このように、皆さんは多くの人々や自然の恩恵によって今日があることを忘れてはならないと思います。周りの人々や自然に対する感謝の心を失えば、傲慢な人間になってしまいます。感謝の心を忘れなければ、自分を支えてくれる大きな力を得ることができます。どうか自分自身に倣ることなく、常に感謝の心を失わず、謙虚に生きていてもらいたいと思います。私は、皆さんが本校の「自主創造」「文武両道」「師弟同行」の校訓のもと6年間で培った力をバネにして、自分の幸福のためだけでなく、他人のため社会のために大いに活躍することを期待してやみません。

それでは、84名の卒業生一人ひとりの旅立ちを祝うとともに、これからの健闘と活躍を祈り、式辞と致します。

令和2年度 卒業生 各賞受賞者

日本大学学長賞（学業部門）



亀田 英太郎
(佐野・田沼小)

佐野日本大学学園理事長賞



山本 健太
(館林・第一小)



藤生 佳奈子
(ぐんま国際アカデミー初等部)

佐野日本大学学園園長賞



松本 恭佳
(小山・小山第一小)

佐野日本大学中等教育学校校長賞



宮城 英太郎
(佐野・石塚小)



稲庭 大晃
(伊勢崎・赤堀南小)



大塚 駿介
(行田・西小)

日本私立中学高等学校連合会会長賞



青木 香苗
(開智小)

三か年皆勤賞

宮城英太郎
 本庄 一冨 (玉川学園小学部)
 岩瀬 雄亮 (太田・駒形小)
 *清野 恭平 (栃木・栃木第三小)
 渡辺 創太 (太田・蕪川西小)
 今泉 友菜 (足利・御厨小)
 *會田 萌絵 (幸手・幸手小)
 瀧原 千晶 (結城・結城小)
 *大塚 駿介
 大塚 優輝 (小山・若木小)
 鈴木 浩介 (館林・第一小)
 岩瀬 遥香 (太田・駒形小)
 *の卒業生は六か年皆勤

三か年精勤賞

飯島 大河 (板倉・西小)
 亀田英太郎
 寺林 陸 (佐野・天明小)
 田畑 諒 (足利・三重小)
 星野 真輝 (邑楽・長柄小)
 山本 健太
 竹澤 花音 (栃木・藤岡小)
 高橋 峻 (館林・第三小)
 山崎野百合 (小山・小山第一小)
 青木 香苗
 高橋 茉鈴 (佐野・犬伏小)
 人見 史企 (結城・結城小)
 山口 世納 (桐生・西小)
 新井 果那 (羽生・羽生南小)
 岡本 早織 (足利・山辺小)
 鈴木 愛唯 (小山・旭小)

栃木県書道連盟表彰

會田 萌絵

栃木県高等学校文化連盟賞

竹澤 花音

浦田教育基金 学園創立60周年記念事業募金

本学園では、浦田教育基金並びに、学園創立60周年記念事業募金のご協力をお願いしております。皆様からお寄せいただきましたご厚意は、生徒学生の奨学金及び、本学園の教育・施設設備等に活用させていただきます。今後とも、本学園へのより一層のご支援、ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

～ご寄付賜りました法人様・団体様～

池頭塗装様、SN桜.com様、佐野日本大学高等学校・中等教育学校同窓会様、篠崎衣裳店様、田中メリヤス工業様、日環様、日星石油様、納富工業様、フォー・エックス様、やじま印刷様 (令和2年9月～令和3年2月 五十音順)

なお、個人の皆様からも多数のご寄付をお預かりいただきましたが、ご本人様からのお申し出により、ご芳名の掲載は控させていただきます。

《受配者指定寄付金制度》税制上の優遇措置が適用になります。

法人様…日本私立学校振興・共済事業団を通じることにより、寄付金は全額を損金算入することができます。

個人様…本学園発行の「寄付金受領書」を添えて確定申告を行うことで、税控除を受けることができます。

【お問合せ先】詳しくは、法人事務局 0283-25-0373 までお願いいたします。

栃木県合唱連盟賞

青木 香苗
 朝倉 寛恵 (さいたま・慈恩寺小)
 田口ひなの (さとえ学園小)

部活動特別賞

書道同好会
 會田 萌絵

部活動功労賞

軟式野球部
 椎名 崇仁 (栃木・栃木中央小)
 合唱部
 石川 未彩 (栃木・岩舟小)
 鬼形 唯生 (大泉・東小)
 齊藤 純香 (栃木・栃木第四小)
 森 ひなた (小山・大谷北小)
 青木 香苗
 朝倉 寛恵
 新井 果那
 田口ひなの
 和太鼓部
 松本 恭佳
 亀田 峻馬 (佐野・佐野小)
 平池 夢香 (栃木・栃木第五小)
 修多羅優輔 (栃木・家中小)
 書道同好会
 竹澤 花音

部活動努力賞

水泳部
 加賀 雄也 (小山・小山城南小)
 硬式テニス部
 山本 健太
 高橋 峻

井上 颯 (館林・第三小)
 岡本 宗己 (鹿沼・東小)
 サッカー部
 小倉 俊人 (佐野・植野小)
 バスケットボール部
 飯島 大河
 寺林 陸
 荒木人士也 (佐野・旗川小)
 八下田愛都 (佐野・田沼小)
 内田 真徳 (小山・間々田東小)
 鹿島神流武道部
 大塚 優輝
 ゴルフ部
 人見 史企
 管弦楽部
 本庄 一冨
 山崎野百合
 美術部
 鈴木 浩介
 デイベート部
 亀田英太郎
 鈴木 光 (佐野・城北小)
 瀨川 陽生 (栃木・西方小)
 数学研究同好会
 星野 真輝
 茶道同好会
 涌井 杏樺 (伊勢崎・北小)
 西村 采珠 (桐生・境野小)
 篠崎 麗空 (太田・中央小)

感謝状

生徒会
 亀田英太郎
 杉山 美鈴 (羽生・岩瀬小)
 稲庭 大晃
 松濤 友道 (栃木・栃木中央小)
 高橋 茉鈴

1日事務所長体験

2年生の林咲結理さんと廣瀬乃々佳さんが、2月14日(日)に栃木県足利市の渡良瀬河川事務所等で一日事務所長体験を行った。二人は第42回全日本中学生水の作文コンクールの副賞として、一日事務所長体験の機会を得た。

この日、二人は災害対策室でWEB会議体験を行ったほか、排水樋管ゲート操作体験や河川巡視体験、サケの稚魚放流イベントなどに参加した。水のルーツを学ぶ貴重な体験に、二人は胸を躍らせていた。



Dari K 吉野慶一さん、NHK BS1「国際報道 2021」に出演

佐野日本大学中学校及び高等学校卒業生の「Dari K」吉野慶一さんがNHKBS1午後10時からの番組、「国際報道 2021」にて取り上げられ、出演した。番組では、「Win-Winをさらに超えた、生産者、消費者、環境、みんなが笑顔になれるAll-winChocolateを作りたい」という熱い想いのもと突き進む吉野さんの姿が紹介された。



編集 後記

日に日に春らしさを増す今日この頃、6年生もついに門出の時がやってきた。6年前の今頃は、新たな生活への憧れで胸を躍らせていたことだろう。時が過ぎ、今また、新しい生活に向けて一歩を踏み出すときである。混沌とした世情であるが、大きな一歩を踏み出そう。みなさんのこれからの、多くの幸あれ。(長谷川記)

広報わかざくら VOL.55

佐野日本大学中等教育学校 栃木県佐野市石塚町2555
 ☎0283-25-0111 (代) http://ss.sanonihon-u-h.ed.jp